

『ふるさと未来の海 砂浜の再現』に向けて ～地域の視点で未来を描く～

第28回 ワークショップ資料

- ・突堤区間の整備方針について

主 催

指宿港海岸保全推進協議会

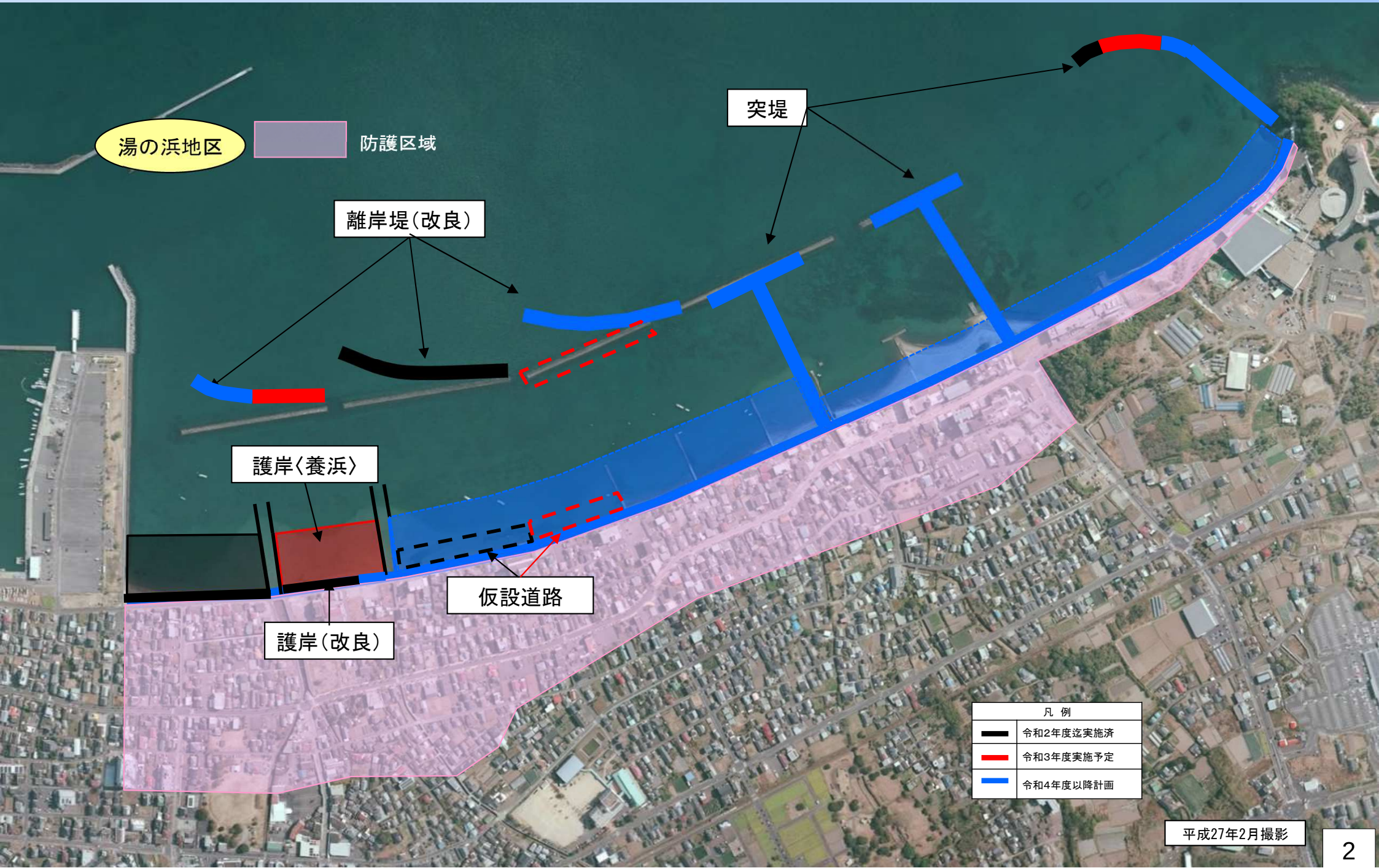
協 賛

指 宿 市
鹿 児 島 県

九州地方整備局 鹿児島港湾・空港整備事務所

指宿港海岸の整備状況

指宿港海岸における令和3年度の工事



指宿港海岸 離岸堤の整備状況(令和3年3月時点)



指宿港海岸 護岸の整備状況(令和3年3月時点)



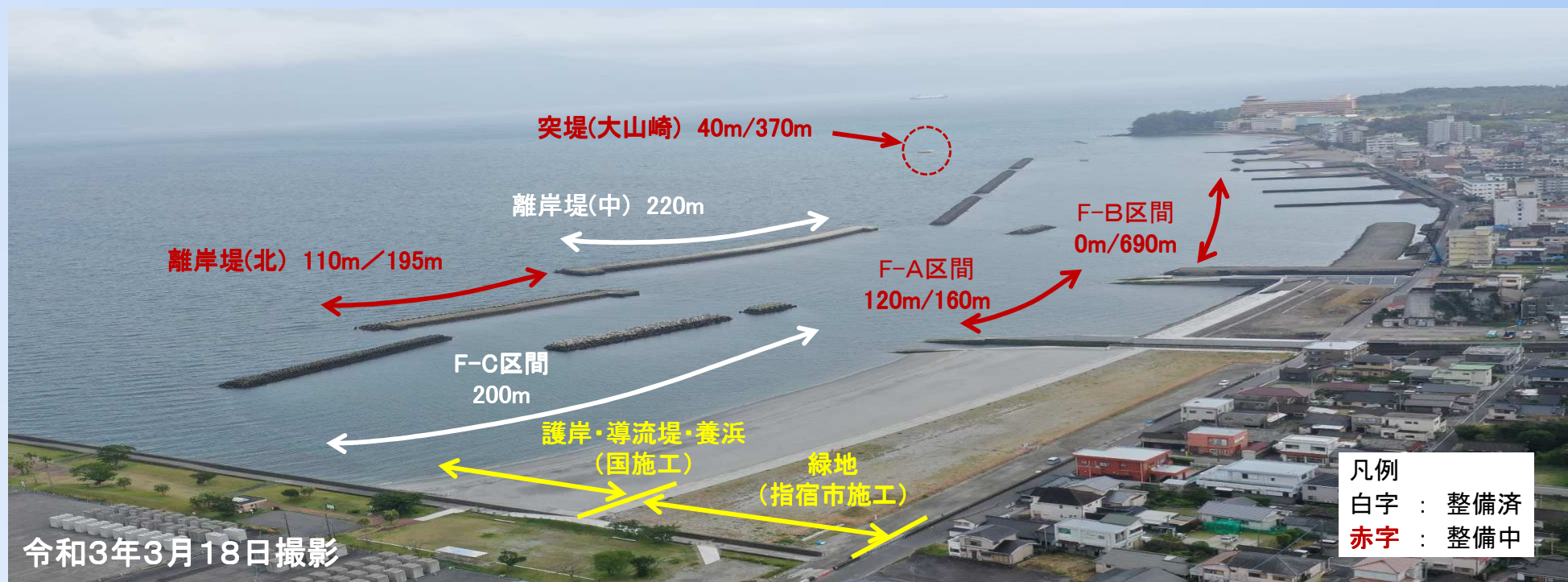
指宿港海岸 養浜の整備状況(令和3年3月時点)



指宿港海岸 突堤の整備状況(令和3年3月時点)



指宿港海岸の完成イメージと整備状況(令和3年3月時点)



突堤区間の整備方針

指宿港海岸(突堤区間)の施設整備計画について

■ 指宿港海岸における突堤区間の位置



■ 突堤区間における砂浜の利用形態と背後関係者の意見

背後関係者の意見を聴取した結果、砂むしの実施エリアと砂浜が消失したエリアで特色が異なっていることが分かった。

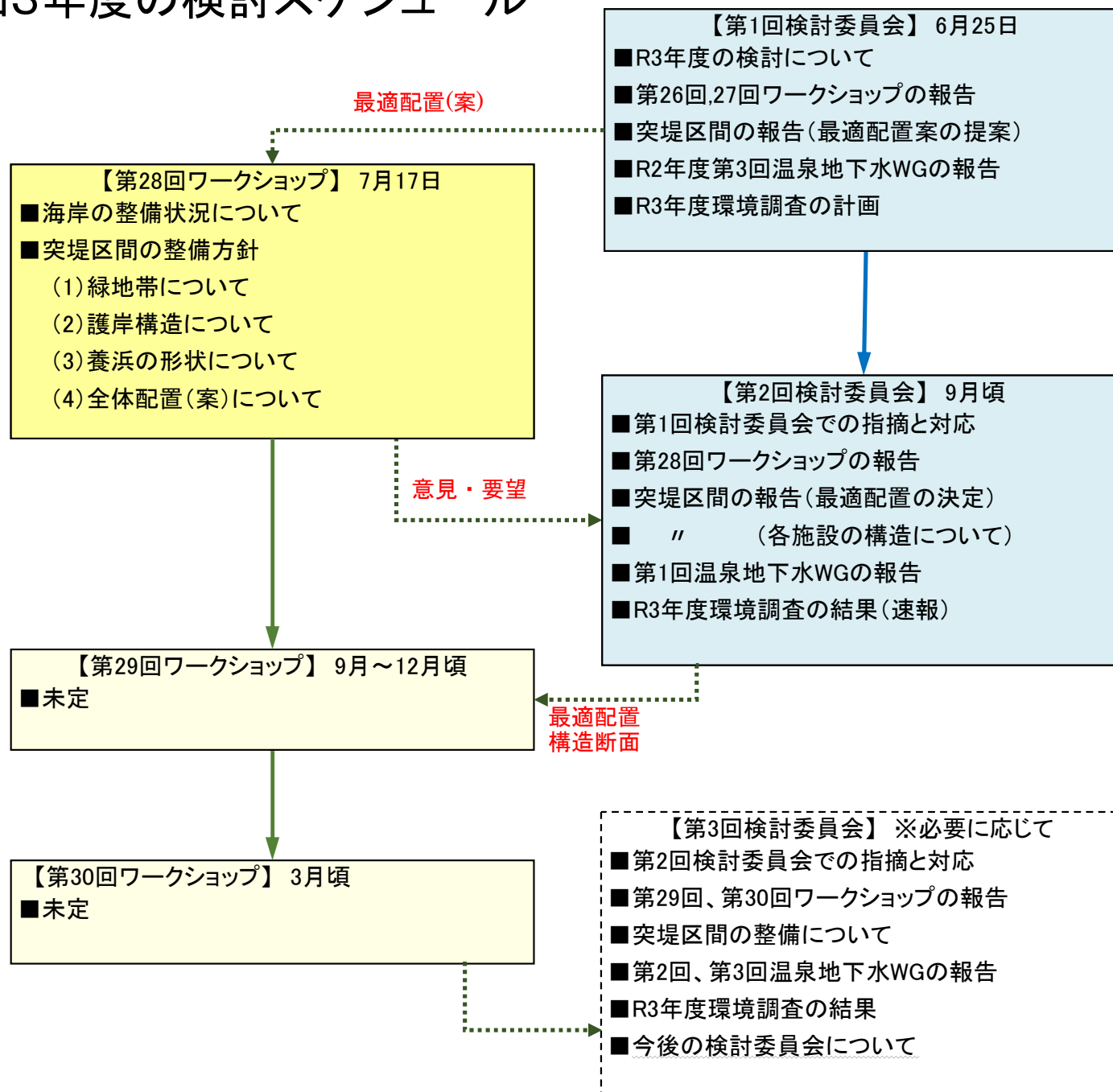


■突堤区間の整備の方向性(案)

検討委員会では【砂むし区間】と【大山崎区間】の2つの区間の特色に合わせた整備の方向性を整理して、突堤、護岸、養浜による面的防護による海岸浸食対策を行う。

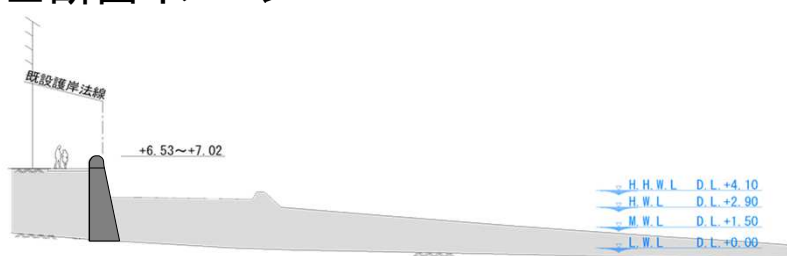
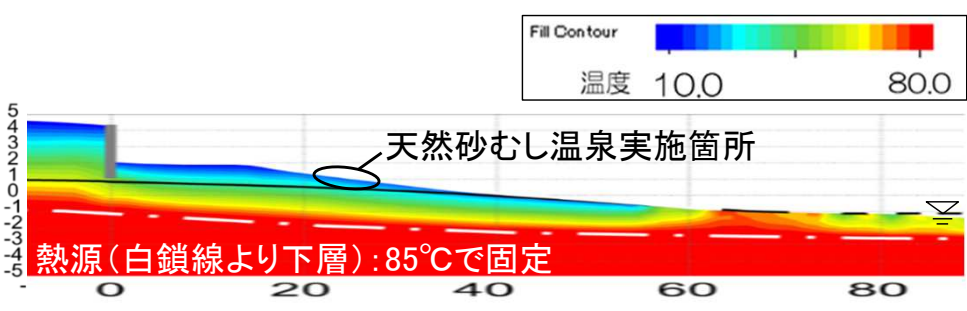
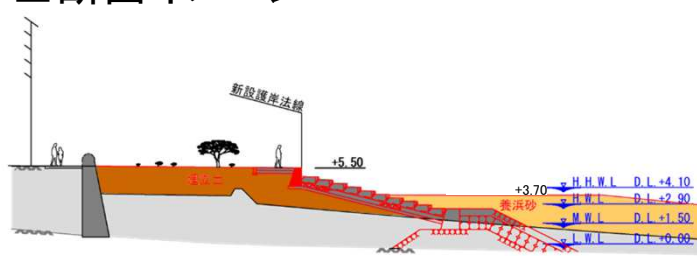
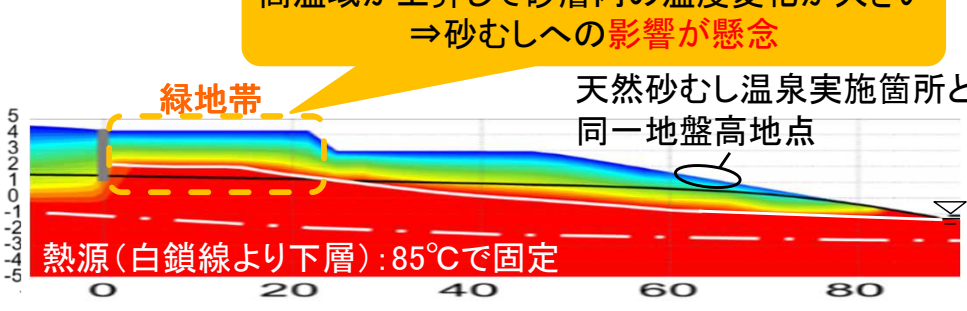


令和3年度の検討スケジュール



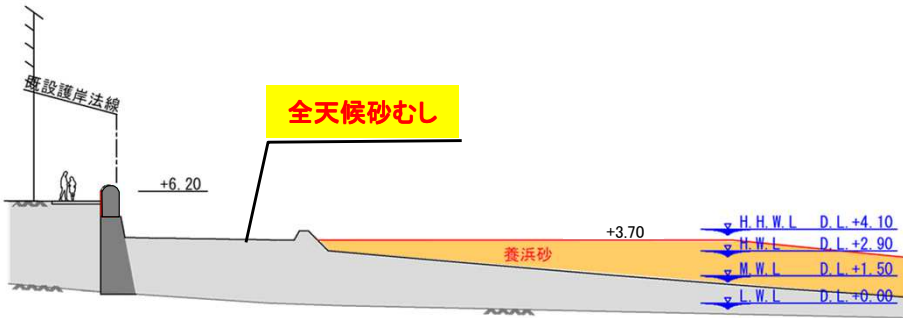
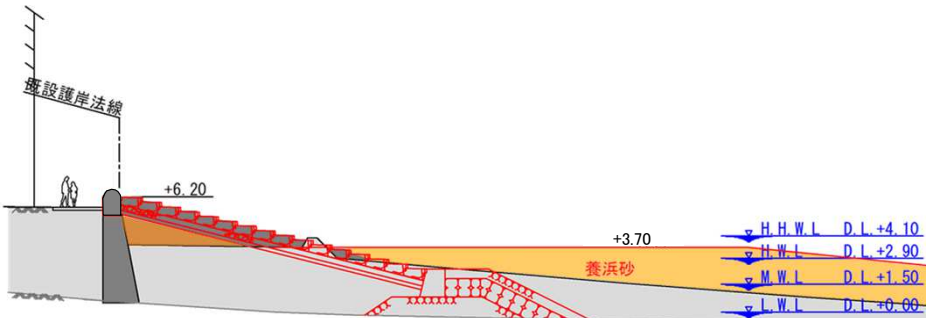
■突堤区間の護岸等の施設について

(1) 緑地帯の有無

緑地帯なし(現況)	緑地帯あり(整備後)
■断面イメージ  ■温泉地下水シミュレーションによる温度分布 	■断面イメージ  ■温泉地下水シミュレーションによる温度分布  高温域が上昇して砂層内の温度変化が大きい ⇒砂むしへの影響が懸念
—	○砂浜までが遠くなり、天然砂むし箇所への移動に時間がかかる ○背後ホテルのカフェ、バルコニーから海への視界が阻害される ○埋土による砂中の温度分布が変化し、砂むしへの影響が懸念される

■突堤区間の護岸等の施設について

(2)護岸構造形式

直立構造	階段護岸
	
○養浜のみの整備のため、天然砂むしへの影響は小さい ○砂浜へはアクセス階段により可能である ○飛砂が背後まで届く可能性は低い ○現状と同等の景観が得られる。	○天然砂むしの実施場所に護岸が築造されるため影響が懸念される。 ○砂浜へのアクセスが容易である。 ○飛砂が背後まで届く可能性がある。 ○離岸堤区間と同様の景観となる。

■突堤区間の護岸等の施設について

【フォトモンタージュ】

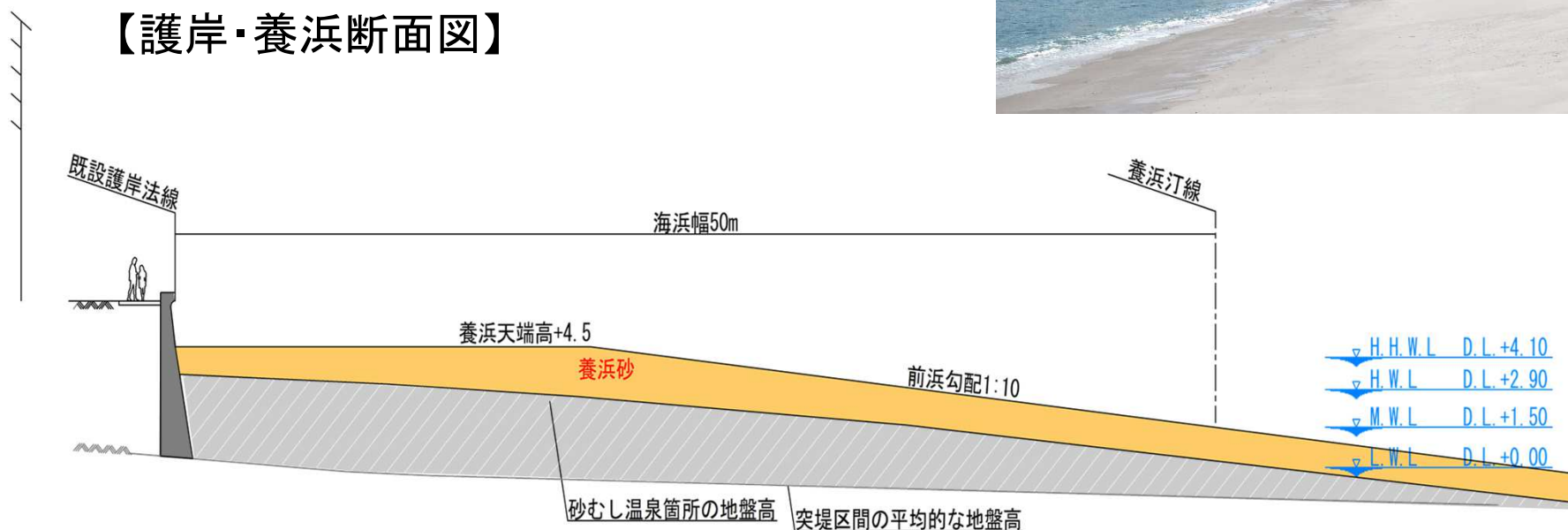
(3) 養浜形状

●大山崎区間の断面の諸元

海浜幅	: 50m
養浜天端高	: D.L.+4.5m
前浜勾配	: 1/10
護岸天端高	: D.L.+6.5m～+7.0m(現況)
護岸構造	: 直立構造(現状)



【護岸・養浜断面図】



【フォトモンタージュ】

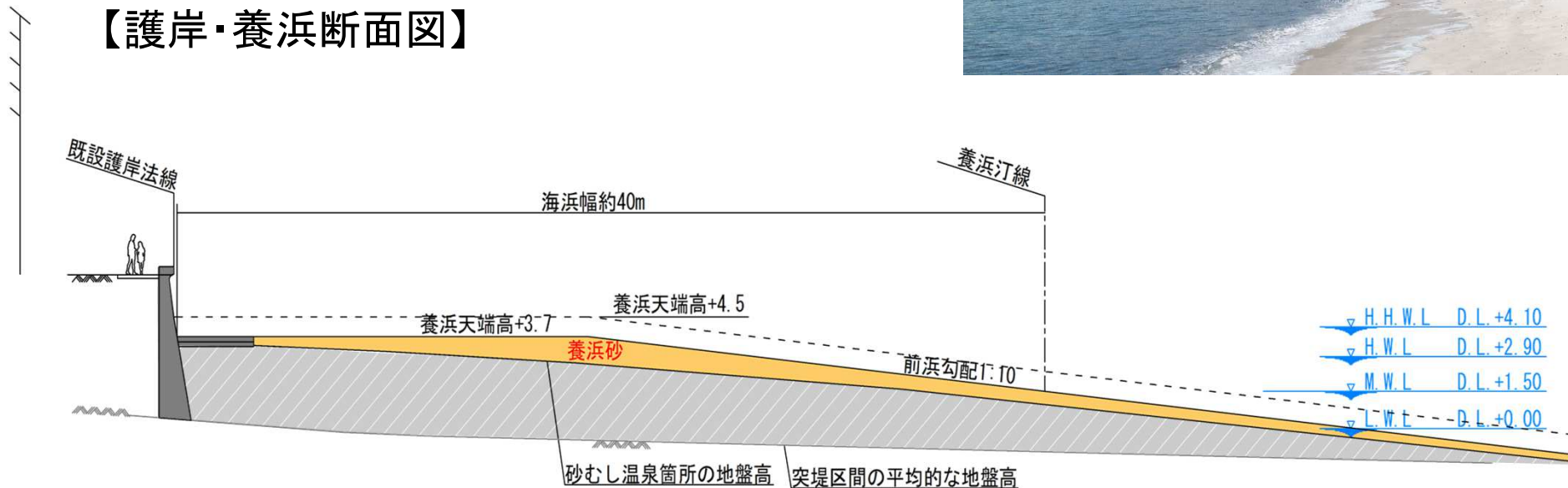


●砂むし区間の構造断面の諸元

海浜幅 : 50m
養浜天端高 : D.L.+4.5m
前浜勾配 : 1/10
護岸天端高 : D.L.+6.5m～+7.0m(現況)
護岸構造 : 直立構造(現状)

ただし、砂むし温泉への影響が懸念されるため、段階的に養浜砂を投入して影響を確認しながら慎重に進める。影響の判断および養浜断面については、温泉地下水ワーキング(浅野委員長)の審議を通じて検討する。

【護岸・養浜断面図】



指宿港海岸(突堤区間)の施設整備計画について

(4) 全体配置案



指宿港海岸(突堤区間)の施設整備イメージ

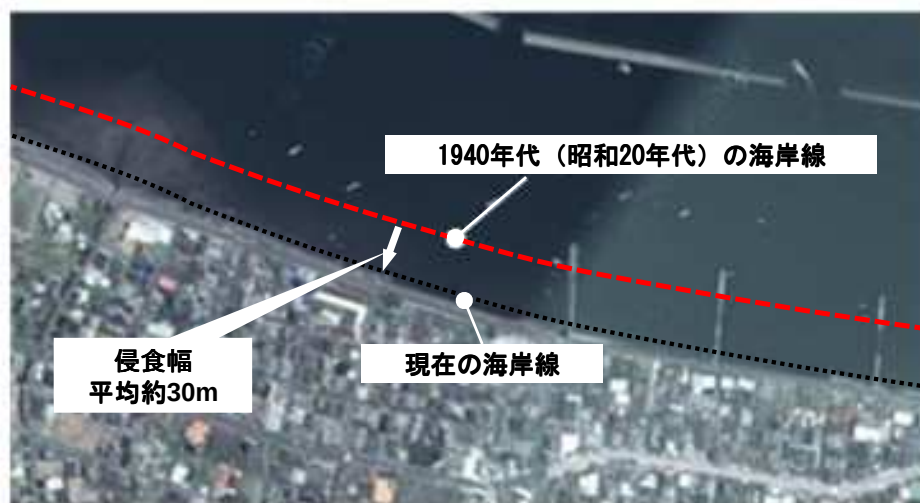


現況



施設整備イメージ図

【海岸線の変化】 ⇒ 砂浜による防護機能の復活



【過去の海岸の利用状況】 ⇒ 豊かな海岸環境としての砂浜の再現

